

歌、音楽で成長健やかに

出生時の体重が2500g未満の「低出生体重児」に対する音楽療法セミナーが1日まで2日間の日程で、山形市の県立中央病院を会場に開かれた。参加者は新生児に歌や音楽を聴かせて心身の状態を改善し、健やかな成長につなげるためのポイントを学んだ。

天童ロータリークラブ（鈴木修次会長）、日本音楽医療研究会などが主催。1日は京都大学大学院医学研究科の呉東進教授が講師を務め、低出生体重児に音楽療法を行う上での注意点や効果的な手法を解説。呉教授は「やや高い声で（人が会話をする音量に当たる）

60分を超えない音量の歌を聴かせることが大事。背中や手足をマッサージして聴覚以外の刺激を加えるのも効果があ



山形 低出生体重児の療法学

「などと助言した。日本音楽医療研究会によると、低出生体重児に対する音楽療法は、歌や音楽を聴かせることでストレスを取り除き、質の高い睡眠、体重の増加などにつなげる効果があるとされ、欧米では研究や医学的根拠に基づき実践が進んでいる。

初日の31日は同病院の新生児集中治療室で行われている音楽療法の現場を約40人が見学。1日は約100人が参加した。

低出生体重児に対する音楽療法のポイントを学んだセミナー

山形市・県立中央病院